# 大館の歴史散歩

戊辰戦跡を歩く⑤

## 雪沢口鬼ケ城の戦い

八月九日、毛馬内代官三浦五郎左衛門を総隊長とした足沢内記隊など手勢三百三十一人の南部軍は、毛馬内（白根村を経て大森山を越え黒沢村から）と小坂村（袈裟掛から）の二手に分かれ、雪沢口への進攻を開始した。

大館城が南部軍の来襲を知ったのは、雪沢村拠人小左衛門が午前十一時ころ知らせたのが最初といわれている。それから高久富之助を索敵に出し、高久から報告を受けたのが午後三時であった。東岱の別荘青嵐亭に本陣を置き各口への戦闘指揮をしていた佐竹大和は、根本順助、横山運之助、中村新太郎の各隊（総勢七十五人）に鬼ケ城山への布陣を命じ、布陣は午後五時に完了した。その後、沼田助八、小山晴之助の両隊を配置して防備を堅めた。しかし、南部軍の進攻は素早く、その時すでに二ノ渡岱へ進出していた。夜になり大和は、決戦場所を館ケ沢と決定し、横山隊を岩神へ、沼田隊を寺ノ沢へ、根本、小山隊を宮袋へ移動させたため、雪沢口の防備の要衝であった鬼ケ城を放棄する形となった。この布陣の変更は、一時南部軍に対して脅威を与えたが、館ケ沢を無視した南部軍にとっては鬼ケ城山の占拠を容易に行わせる結果となり、逆に秋田軍はここを奪還するための時間と兵力を動員しなければならなかった。

翌十日、大和は鉄砲頭小林主鈴を先陣として全隊に鬼ケ城奪還を命じ、第二次鬼ケ城戦が開始され、下代野村、小茂内村で銃撃戦が行われている。翌十一日小山隊を鬼ケ城正面へ、小林隼太隊を南面本道筋へ、清水甚右衛門、小林主鈴隊を北面薬師森へ、農兵隊を南面後詰めへの布陣を行い、午前十時第三次鬼ケ城戦が開始された。午後三時に至り南部軍の総退却により鬼ケ城を奪還した。

十二日、津軽藩から援兵として対馬寛左衛門を隊長とする七十八人が到着し、津軽越中守から和砲玉目六匁筒、同三匁五合筒各五十挺にそれぞれ玉薬百発添えて佐竹大和へ贈っている。また、十六日、小場小伝治親子が、自家の兵卒を率い鎮撫総督府からの菊章旗を携えて来援し、佐竹大和、茂木筑後にそれを伝達した。

南部軍は、目に映った菊章旗をどう感じたであろうか。大小の違いはあるが、鳥羽・伏見の戦いで薩長側の錦旗を見た会津軍の驚きのようなものはすでになかったのであろうか……。

十八日、佐竹大和、茂木筑後、須田政三郎が協議し、大和一隊をもって南部領討ち入りを決定、根本、中田隊など七小隊を雪沢大葉岱に進出させた。また、津軽藩からの援兵対馬寛左衛門隊も雪沢口応援の命令により扇田から蓮荘寺へ移り宿陣していた。しかし、この南部領討ち入りも二十日の第二次扇田戦の敗北により中止となった。

南部軍は、十一日の第三次鬼ケ城戦では一時退いたものの、再進攻の際には報復のため攻撃に激しさが増し、扇田村と同様に黒沢、石渕両村を焼き払うなどの焦土作戦を展開している。

二十一日午前十時、南部軍の新手の銃隊の進出が確認されるにおよんで、秋田軍雪沢口守備四隊は鬼ケ城までの退却を開始した。南部軍の勢いはとどまるところを知らず、四隊が鬼ケ城に集結してまもなく全山包囲されるにおよび、各兵とも死地を鬼ケ城と定めて防戦態勢をとった。午後三時ごろ、陣場奉行平塚千蔵より鬼ケ城からの退却命令があり、退却には困難を極めたが、諸隊は岩神山、一本杉、八幡堂の線まで退き、待命となった。

この大館城の出丸的な鬼ケ城の攻防戦は、戊辰戦前半の天王山とも言えるものであり、ここからの退却は大館落城を暗示するものであった。

**市役所史跡探訪会**

小茂内から鬼ケ城を望む

## 私の本棚

中央図書館新着図書

### 『寺田寅彦』

太田文平著　新潮社

自然の現象に目をそそぎ続けた寺田寅彦。漱石を師として交流を深め、物理学者でありながらその科学的な視点でエッセーを綴った寺田寅彦。その生涯と思想。

**一般書**

◇蜂の殺意（関口ふさえ）◇やすらかに今はねむり給え（林京子）◇メノッキオ（大原富枝）◇冬の音楽（森詠）◇男たちのギリシア悲劇（三枝和子）◇ＴＶレポーター殺人事件（モリー・マキタリック）◇日本経済日はまだ高い（鈴木淑夫）　ほか

**児童書**

◇黄金のさなぎ（湊和雄）◇クジラはなぜ歌う（中村庸夫）◇スーパー水族館（鳥羽水族館）◇日本恐竜図鑑（ヒサクニヒコ）　ほか

**8月のテーマ関連図書コーナー**

『元気の出る本』

**親子読み聞かせ会**

毎月第１金曜日　午後２時30分から

**中央図書館の休館日**　8月19日、23日

※９月１日から16日まで、本の虫干しのため休館となります。